

登校清掃ボランティア

体育大会の取組だけでなく、
日常の活動も大切にしている
ところが素敵です！！

5月10日の朝、地域の人から電話をいただきました。

「川島中の男子生徒が、火ばさみをもち、ごみを拾いながら登校しています。あれは何をしているのですか？」というご質問をいただいたので、登校清掃ボランティアについて説明をすると、「素晴らしい活動ですね。」とお褒めの言葉をいただきました。

登校清掃ボランティアは、昨年度後期の生徒会がスタートさせたものです。ボランティアを行う生徒は、前日に火ばさみを借り、ごみを拾いながら登校するのです。

学校では、総務部の生徒が、みんなが集めてきたごみを分別してくれます。今回は、割れた瓶、ごみ袋が一杯になるくらい大きなビニール、タバコが一杯詰められた空き缶など、7kgのごみが集まりました。

吸い殻が入っている限り、空き缶をアルミ缶としてリサイクルすることはできません。ですから、ごみの分別を担当していた生徒は、空き缶を何度も何度も振ってタバコの吸い殻を出し続けていました。朝の活動が始まる時間を気にしながらも、ずっとです。

以前、まだ「サギのコロニー」があった頃、「サギのコロニー」を守ろうと川島小の5年3組の子どもたちが活動をしていました。今の生徒たちと同じように、コロニーに捨てられていたごみを拾っていたことを思い出します。

総務部の生徒たちは、川島にごみがたくさんあるから、この活動を考え、始めたのでしょう。しかし、よく考えてみると、本当は、このような活動を子どもたちが行わなくてもよい地域社会になるのが一番なのです。

大人も子どもも、みんなでこの川島の街をきれいにしていくことの大切さを感じました。



